

(2)商品別見通し(輸入)

(商品別輸入)

2017年12月5日(火)

品目	2016年度 (実績)		2017年度 (見込み)						2018年度 (見通し)		コメント		
	10億円	伸び率	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率	伸び率	2017年度		2018年度	
			実績	伸び率	見込み	伸び率							
総額	67,525	▲10.2%	36,461	+15.3%	38,705	+7.8%	75,165	+11.3%	↑	77,513	+3.1%	4年ぶり増加に転じる。	2年連続増加。
IM 01 食料品	6,410	▲7.0%	3,552	+12.9%	3,515	+7.7%	7,067	+10.3%	↑	7,399	+4.7%	堅調な国内需要などを背景に、魚介類や肉類などを中心に金額が増加する。	国内需要は引き続き堅調であるが、数量の伸びは鈍化する。
魚介類	1,486	▲5.3%	832	+16.3%	852	+10.5%	1,684	+13.3%	↑	1,786	+6.1%	まぐろは世界的に需要が逼迫し、価格が上昇している。他国の需要が旺盛であり数量は微減を見込む。さけも米国で紅鮭の引き合いが増加していることなどから、どの魚種も価格が上昇している。数量は微減となるが、金額は増加する。えびは中国の養殖場の病気の影響や、円高気味だった16年度からの反動減により数量は減少するが価格の上昇が続き、金額は増加。	さけ、まぐろは中国をはじめとした世界的な需要増が続き、数量は横ばいとなり、価格は引き続き上昇する。えびは17年度の中国からの供給不足が解消され数量が増え、需給のゆがみが解消されることから価格は下落する。
肉類	1,316	▲4.0%	762	+16.9%	724	+9.0%	1,486	+12.9%	↑	1,576	+6.1%	豚肉は国産豚の価格上昇を受け、輸入数量が微増し、価格も高止まりするため輸入金額は増加する。牛肉は米国産の冷凍牛肉にセーフガードがかかっているが、冷蔵牛肉や豪州産の数量が増え、全体の数量は日本の需要増加にあわせて伸びる。鶏肉は16年度上半期の価格下落の影響で上半期は大きく伸びたが、下半期は一巡する。	豚肉は17年度の価格上昇は一服し、米国からの輸入が数量を押し上げる。牛肉は米国産のセーフガードは未定であるが、数量は引き続き需要増に伴って増加し、価格は横ばい。鶏肉は価格、数量ともに横ばい。
IM 02 原料品	4,068	▲10.9%	2,381	+22.1%	2,248	+6.1%	4,629	+13.8%	↓	4,391	▲5.1%	数量は微増も価格上昇が継続し金額が増加する。建築向け、自動車向けの需要が好調。	減少に転じる。非鉄金属は増加するも、鉄鉱石の減少による。
鉄鉱石	818	▲17.5%	567	+49.2%	505	+15.2%	1,072	+31.0%	↓	907	▲15.4%	建築向け、自動車向けの需要が引き続き好調となり下半期の粗鋼生産量は上半期よりも増加が見込まれ、数量は16年度並みとなる。価格は16年度より上昇し、金額は大幅に増加。	17年度と同程度の自動車需要やオリンピック関係の物件投資が見込まれるため数量も同程度となる。価格は下落傾向が継続すると見込まれるため金額が減少する。
非鉄金属	1,214	▲6.8%	683	+19.1%	690	+7.7%	1,373	+13.1%	↑	1,449	+5.5%	17年度は製錬所の炉修・操業トラブルなどにより16年度とほぼ同水準の銅鉱数量となる見込み。銅鉱価格は上昇。非鉄金属全体の金額が増加する。	製錬所炉修の減少が見込まれ18年度の精鉱数量は増加する。銅鉱価格は上昇傾向が継続し金額が増加する。
IM 03 鉱物性燃料	13,138	▲18.2%	7,247	+32.3%	7,899	+3.1%	15,145	+15.3%	→	15,203	+0.4%	省エネルギーの進展などから原油や石油製品の数量が減少。原油価格上昇と円安傾向により、輸入金額は増加。石炭も上半期の価格高騰を主因に大幅増。ただし、下半期は原料炭を中心に16年度同期比マイナスに転じる。	省エネルギーの進展や再生可能エネルギーへのシフトなどから、数量は原油を中心に小幅減少。原油価格の騰勢も弱まるため輸入金額は横ばい。
原油及び粗油	6,180	▲16.1%	3,205	+17.8%	3,603	+4.2%	6,809	+10.2%	→	6,776	▲0.5%	原油価格の上昇と円安により輸入金額は大幅に増加。国内の石油製品需要の減少や、火力発電用途の原油需要減少により数量は減少。	省エネルギーの進展による国内市場の縮小や、再生可能エネルギーの台頭などから火力発電用の原油需要の減少傾向が続き、数量減少。原油価格の騰勢も弱まるため、金額は横ばい。
石油製品	1,182	▲28.1%	671	+42.5%	722	+1.5%	1,393	+17.8%	↑	1,547	+11.1%	原油価格上昇に伴い価格が上昇し、輸入金額は大幅に増加。低燃費化や他エネルギーへの燃料転換などの構造的要因により国内の石油製品需要は減少傾向が続いており、数量は減少。	国内の石油製品需要は減少傾向が続くものの、緩やかな原油価格の上昇や円安傾向により輸入金額は増加。
LNG	3,334	▲26.6%	1,861	+36.1%	2,042	+3.8%	3,903	+17.1%	↑	4,016	+2.9%	原油価格上昇を主因に輸入金額は大幅に増加。LNGの価格はデリバリーされる3ヶ月前の原油価格にリンクしている事が多い。	数量は17年度並みを想定。原油価格の上昇、円安により輸入金額は増加。
LPG	473	▲18.2%	248	+40.2%	376	+27.2%	624	+32.1%	→	628	+0.7%	数量：家庭業務用および自動車燃料用の需要は落ちるものの、都市ガス用および化学原料用の需要増により増加。価格：原油価格の上昇や、産油国の協調減産により原油に付随して出てくるLPGの生産が減少したことから上昇。	数量：17年度同様、都市ガス用、化学原料用の需要増が見込まれ、増加が続く。価格：17年度の価格上昇の反動などからやや下落の見込み。
石炭	1,917	+2.8%	1,244	+73.1%	1,116	▲6.9%	2,360	+23.1%	↓	2,195	▲7.0%	原料炭、一般炭とも、上半期の価格高騰を主因とした大幅増に、ただし、下半期は原料炭を中心に16年度同期比マイナス。16年度下半期の価格上昇の反動を含んでくることに加え、原料炭市況が中国市場の変調(環境規制強化に伴う鉄鋼生産抑制、一部サプライヤーによる在庫調整)をきっかけに反落し始めているため。	減少に転じる。原料炭を中心に価格下落が続くため。もともと、中国の鋼材需要はインフラ向けを中心に底堅いことから、原料炭が大きく値崩れするまでには至らず。
IM 04 化学製品	7,122	▲8.5%	3,757	+8.7%	4,014	+9.6%	7,771	+9.1%	↑	8,158	+5.0%	医薬品：高齢化の進展による需要増加を受けつつも、医療費抑制策の影響のもと、微増にとどまる。石油化学製品：国内供給能力の削減と最終製品の需要増を背景に、需給の逼迫感が高まりつつあり、増加が見込まれる。	医薬品：数量・金額ともに、緩やかに伸びる。なお、18年4月には薬価改定が予定されており、輸入金額にも影響を与える。石油化学製品：国内需要は緩やかな増加が続くものの、市場の成熟ゆえ一段の加速は見込みにくく、微増にとどまる。
IM 05 原料別製品	6,148	▲9.8%	3,399	+14.6%	3,728	+17.1%	7,128	+15.9%	↑	7,727	+8.4%	増加に転じ、特に非鉄金属、鉄鋼が大幅に伸びる。内需が堅調なため数量が増加し、世界的な需要回復により価格が上昇するため金額の増加が見込まれる。	回復傾向が続く。数量の緩やかな増加が続くほか、円安と緩やかな価格上昇が見込まれ金額が増加する。
鉄鋼	738	▲8.4%	464	+39.4%	514	+26.9%	978	+32.5%	↑	1,051	+7.5%	内需が堅調に推移し数量が増加する。世界的な需要の回復および中国国内での需給バランス改善による鋼材輸出の減少により16年度より価格上昇が見込まれるため金額が大幅に増加する。	数量は17年度比で微増、価格は17年度比でやや増加する。
非鉄金属	1,426	▲8.7%	861	+29.8%	915	+19.9%	1,776	+24.5%	↑	1,907	+7.4%	アルミニウム：在庫は適正水準25万トン付近を推移。需要が堅調に推移し、地金価格の上昇と数量の増加が見込まれ金額が増加する。白金族：プラチナ投資・自動車触媒需要が回復し数量は微増。また価格は、プラチナがやや低下したが、パラジウムが上昇基調なため、金額は増加する。	アルミニウム：需要の高止まりを背景に数量増加が継続。地金価格も底堅く推移するため金額も増加する。白金族：自動車販売が好調なため触媒需要が増加し、数量が増加する。価格は緩やかな上昇が見込まれ、金額は17年度よりさらに増加する。
織物用糸・繊維製品	873	▲9.6%	458	+6.5%	454	+2.5%	912	+4.5%	↑	961	+5.4%	増加に転じる。数量は、衣料資材の低迷が続くが、自動車用をはじめとした産業資材を中心に全体としては緩やかに増加。このもとで価格も下げ止まり。	回復傾向が続く。数量の緩やかな増加が続くほか、円安持続に伴い価格が持ち直す。
非金属鉱物製品	673	▲11.9%	344	+4.1%	367	+6.9%	711	+5.5%	↑	748	+5.3%	ガラス：新規住宅着工件数の緩やかな減少を背景に建築用ガラスの数量は減少傾向。自動車用ガラスの数量も減少傾向。価格上昇と円安により輸入金額は増加。ダイヤモンド：円安により数量は緩やかに減少。価格は横ばいであるが、円安による押し上げ効果により輸入金額は増加。	ガラス：新規住宅着工件数は17年度に引き続き緩やかな減少傾向にあるため建築用数量は減少。また、自動車用ガラスの数量も減少傾向。価格の上昇とさらなる円安の進行により金額は増加。ダイヤモンド：輸入量はほぼ緩やかに減少。価格は横ばいの見通しだが、円安による押し上げ効果により輸入金額は17年度と同程度に増加。
IM 06 一般機械	6,422	▲7.9%	3,632	+19.2%	3,740	+10.8%	7,372	+14.8%	↑	7,650	+3.8%	電算機類はパソコンの高付加価値化と買い替え需要により大幅増に転じる。下半期はエアコンが剥落するものの、半導体製造装置は好調、原動機も伸びて、増加に転じる。	電算機類は価格上昇に加え買い替え需要も一服し減少に転じるが、一般機械全体では底堅く、円安効果で17年度比3.8%の増加。
電算機類(含周辺機器)	1,746	▲9.6%	955	+22.9%	1,140	+17.6%	2,095	+20.0%	↓	1,988	▲5.1%	大幅増に転じる。パソコンの高付加価値化(CPUの高性能化や省電化など)による価格上昇が主因。	再び減少に転じる。価格上昇は一服し、買い替え需要も一巡。
IM 07 電気機器	10,919	▲7.5%	5,584	+10.2%	6,520	+11.4%	12,104	+10.9%	↑	12,570	+3.8%	パソコンの買い替えなどでICの数量が増加し、半導体等電子部品の輸入は増加。通信機も2年周期の山にあたり、特に下半期は新機種の輸入増加要因が加わって増加。	半導体等電子部品は国内需要が一服し数量は緩やかに増加。通信機は携帯電話が2年周期の谷、基地局についても大きくは伸びず伸び悩み。17年度比ではやや増加となる。
半導体等電子部品	2,524	▲12.4%	1,385	+13.9%	1,466	+12.1%	2,851	+13.0%	↑	3,006	+5.4%	国内ではパソコンの買い替えサイクルが続き、ICやトランジスタ等の数量が増加する。一方で太陽光パネル向けのモジュールの減少は続く。	パソコンや家電製品の国内需要の回復が一服し、数量の増加は緩やかになる。
通信機	2,781	▲4.5%	1,237	+1.3%	1,664	+6.6%	2,901	+4.3%	↓	2,841	▲2.1%	輸入全体の約6割を占める携帯電話は、下半期では新機種の販売開始により輸入が増加し、通信機全体をけん引する見込み。携帯電話に次いで輸入全体の約2割を占めるデータ通信機器、そして金額は小さいものの基地局に関しても、携帯電話の需要増とデータ通信高速化に対応すべく、下半期も上半期同様、16年度同期比で輸入は増加する見通し。	減少に転じる。携帯電話は、買い替えサイクルの谷になるため、輸入金額は減少。基地局は、19年から導入開始予定の5G用の基地局の輸入が増えると考えられるものの、既存の4Gの基地局を改修することで5Gに対応させることも可能なため、大きく金額が増えることはない見通し。ただ、IoTやビッグデータ、ロボットを活用した新サービスの創出、自動運転車普及に伴い、データの大容量・高速化の必要性が高まると考えられるため、ネットワーク関連機器の需要は堅調に推移すると見られる。
IM 08 輸送用機器	3,087	▲0.1%	1,555	+4.0%	1,670	+4.9%	3,225	+4.5%	↑	3,285	+1.9%	自動車はドイツ高級車が販売好調で増加、航空機は機体購入減少で大幅減、輸送用機器全体で16年度比4.5%の増加を見込む。	自動車はドイツ高級車の販売好調が継続、航空機は17年度並み、輸送用機器全体で17年度比1.9%の増加。
自動車	1,185	+5.1%	638	+7.2%	592	+0.4%	1,230	+3.8%	→	1,238	+0.7%	クリーンディーゼルの販売が引き続き好調(輸入車販売比率過去最高の22%)。日本メーカー逆輸入車の販売は不調も、ドイツ高級車の販売好調により引き続き堅調に推移する見込み。	クリーンディーゼル車などのドイツ高級車の販売好調が継続するため、17年度比横ばい。
航空機類	705	▲3.0%	280	▲20.1%	303	▲14.3%	583	▲17.2%	↑	600	+2.8%	航空機は2~3年前の受注に基づく計画生産。一部キャリアの機種更新の集中とLCC用機種のデリバリーが15年度をピークに収束。また、大手キャリアは顧客満足向上に向けた投資(Wi-Fiや高級・高機能シート導入)を進めており、また、LCCの需要は増加傾向にあるものの、機体購入よりも、業務提携や資本提携に重点を置いており、輸入数量は横ばいか微増にとどまる見通し。	17年度と同様の傾向が継続。17年度比同程度の水準とみる。
IM 09 その他	10,211	▲9.1%	5,353	+6.9%	5,371	+3.2%	10,724	+5.0%	↑	11,130	+3.8%	精密機器類：医療関係は消耗品が増加するも、機器が伸びず。時計は資産価値のある高級ブランドに安定した需要あり。半導体・液晶関連は最終製品の生産拠点移転の影響あり。その他雑製品：がん具は回復後に伸びが鈍化。そのほか住宅着工の頭打ちなどを背景に一段の上伸を見込みにくいものが多い。特殊取扱品：金の通関は低水準が続くと見込む。	個人消費の緩やかな回復が追い風となるが、がん具、半導体・液晶関連、住宅関連などで伸びの鈍化が見込まれ伸び率は低下する。
衣類・同付属品	2,977	▲12.0%	1,523	+1.7%	1,506	+1.8%	3,028	+1.7%	↑	3,145	+3.9%	大幅な落ち込みが一服。国内市場は品目により売れ行きの好不調が分かれているが、輸入においてはスポーツウェアやワーキングウェア(主に建設作業用)の需要回復が押し上げ要因に。	伸びが緩やかに高まる。20年の東京オリンピック開催を控えて、スポーツウェアの需要増が持続。加えて、円安が続くもとで価格も総じて持ち直し。
製品輸入	43,910	▲7.9%	23,280	+10.6%	25,043	+9.5%	48,324	+10.1%	↑	50,520	+4.5%	製品輸入比率64.3%(前年度比▲0.7ポイント)。	製品輸入比率65.2%(前年度比+0.9ポイント)。

*2017年度上半期の実績は9桁速報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している